

『本部うら盆供養』

私たちは毎日がお盆であります。そして今日は、大導師さまがおっしゃったように、供養に対して振り返り、懺悔をして、ご先祖さま、流産児、因縁に対してしっかりご供養させていただきますと誓う日であります。

今日は「成佛」についてお話をさせて頂きたいと思います。成佛とは「佛に成る」と書きます。では、佛というのはどういうものでしょうか。佛というと、お釈迦さまや諸佛諸天善神の姿を思うかもしれませんが、これも間違いではありませんが、会主さまが仰った「成佛」の「佛」とは、そういう別格の佛さまではなく、違った形・意味の佛さまであるのです。

私たちの心や行いは善と悪の綱引きをしています。お釈迦さまは「私たちは佛になる心を持っています。全ての生き物は佛になれるのです」と説いてくださいました。しかしそれは、別格の佛さまになるということではありません。自分自身の心や行いによって、悪を少なくして善を伸ばすために、人間として生まれてきたのです。善い人間になる、善い行いをすることこそが、妙智會の「成佛」だと思います。

今日は「幼稚」という言葉を使わせて頂きますが、私たちは幼稚であり、本当の成佛に向かって、人間として成長していません。このことを思って会主さまが最後に「心」を残されたと思います。ここを気付かなければならないと私は頂戴しました。

皆様のご先祖さまの中で、病気をしたり、お金や人間関係に苦しみ、亡くなっていった方もいるかと思います。その方に対して、

毎日朝夕ご供養して成佛を願いますね。それは、先ほどの別格の佛になるようにということではなく、霊界で懺悔をして、感謝をして、人間としての在り方に気づいてもらうことが、私は妙智會の成佛の供養だと思います。それによって、次の世でまた人間に生まれてくることができるのだと思います。人間として生まれ、その時々で善の方に人間として成長し、幼稚な根性を捨てることが「成佛」になる修行です。

そのためには、人と関わらなければいけません。人との関わりがなければ、自分の嫌なところから逃げて、自分を見つめることはありません。会社、家庭という人間関係の中で、自分自身を気づかなければならないのです。

つらい目に遭うことも、相手の涙を見ることもあるかもしれません。でもそれは気づかせてもらえるきっかけであり、通らなければいけない試練です。だから自分自身を改められるのです。

そして、私達は「慈悲」を持つことによって、幼稚なものがなくなっていくます。人との触れ合いの中で、相手に慈悲をかけ、幸せになってもらうために、自分自身を変えるのです。その私達の行いで、ご先祖さまにも気づいてもらうことができます。それこそが妙智會の「回向」です。それが、会主さまが一番大切な修行だとおっしゃった慈悲行です。そして慈悲行の最も大切な部分が導きです。たくさんの幸せな人を増やすことが導きです。相手がいなくてはできません。たくさんの人を、ご先祖さまを、流産児を幸せにするために、私たちは居るのです。そして成長するのです。己のための導きやお経はありません。それは会主さまの教えではありません。会主さまの開教の精神は、世のため人のためになる、人間にな

ということですね。自分のためにということは一つもありません。このうら盆の時に、このことに気づかなければなりません。

そして、最後の会主さまの節分でのご指導で「鬼の根性をとりなさい。人に与えなさい」とおっしゃったこと、これこそが慈悲です。鬼の根性、幼稚な根性をとって、慈悲を持ちなさいということです。これが私たちのまっすぐ進むべき光明です。

どうぞ、皆さま会主さまのご指導いただいて、成長してください。それこそが成佛です。そして、私たちが良い人間になっていく中で、それをご先祖さま、流産児に見せることが回向になると信じてください。ともに頑張りましょう。人間としての成長で、本当の意味の成佛をぜひお願いして、私の話を終えたいと思います。

『戦没者うら盆供養』

私たちは世のため人のために尽くすことが大切です。会主さまは回向について「戦没者は国の先祖。今の平和に感謝し、供養しなければいけない」と、私たちにご指導くださいました。

戦没者に対しどのように回向すれば良いのかというと、争いをしないことです。国同士の紛争だけではなく、私たち個人同士の争いもしてはなりません。私たちは幼稚で悪い根性を持っています。それを改め、人のため、社会のために尽くし、争いの根性を改めることが、亡くなった戦没者に対する一番の回向であり、供養です。

そのことを再認識し、学び、行っていくことがうら盆供養の意義です。人のため、世のために尽くしてください。それは年齢や性別に関係なく、全ての方が平等に行うことができます。そのことを受けとめ、今からそのような人になって頂くことをお願いします。